

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター 2011 年度事業計画書

事業目標

チャイルドライン支援センターが、法人格を取得して 10 年を迎えた歴史を踏まえ、新しい局面に向かう節目にあたる 2011 年度の事業目標を次の通りとします。

- 1、全国統一番号・フリーダイヤルの実施
- 2、「新しい公共」としてのチャイルドラインを、統一番号・フリーダイヤルとともに社会に広く知らせる。またその際、他機関との連携を図り、ネットワークを強化する
- 3、全国各地のチャイルドラインの運営基盤を整備するためのサポートおよびネットワークを図る
- 4、「チャイルドライン」に関わる組織及び人材のスキルアップを図る
- 5、全国及び近隣チャイルドライン同士の交流を図るとともに、行政、企業、他団体との連携、協働を推進し、「チャイルドライン全国フォーラム 2011 in みえ」につなげる。また、世界のチャイルド・ヘルプラインネットワークに参画することによって、世界とつながる
- 6、日本のチャイルドラインのこれからのあり方について、調査研究をすすめる
- 7、チャイルドラインが受けとめた子どもの声を社会発信し、国や自治体などの子ども政策に反映させ、子どもの権利条約に保障された子どもの育ちを支える社会環境をつくる
- 8、他機関や企業との連携・協働をこれまで以上に推進し、「チャイルドライン」の社会での定着を目指す
- 9、チャイルドライン支援センターのあり方も含め、組織運営の整備に引き続き取り組む
- 10、東日本大震災をうけ、チャイルドラインとしての子ども支援を行なう

事業計画

上記目標に基づき 2011 年度の主たる事業を次のように実施します。

- 1、[チャイルドライン事業] 全国統一番号・フリーダイヤルの実施
 - (1)全国統一番号・フリーダイヤル実施運営及び実施体制の充実をはかる。
 - (2)データを集積し、社会発信する。データ集積のため、データベースの入力支援を行なう。
- 2、[広報事業] 「新しい公共」としてのチャイルドラインを、統一番号・フリーダイヤルとともに社会に広く知らせる。またその際、他機関との連携を図り、ネットワークを強化する
 - (1)チャイルドライン広報

これまでのキャンペーンを踏まえ、各地のチャイルドライン及び関係団体などと協働型でキャンペーンを実施する。

全ての子ども達へのカードの配布率 100%を目指し、今年度は実態を把握しながら対象年齢の 50%配布を目標にする。

チャイルドラインで培った子どもへの寄り添い方を伝える公開講座実施の準備を行う。(朝日新聞厚生文化事業財団助成事業)

ホームページでの広報を行なう。
 - (2)キャラクターの展開
 - (3)チャイルドラインを知らせるためのリーフレット等を作成する
 - (4)夢メッセージ映像の作成を行なう

- 3、[地域支援事業] 全国各地のチャイルドラインの運営基盤を整備するためのサポートおよびネットワークを図る
- (1)組織運営支援事業の実施
安定した運営基盤整備のための組織運営支援事業を実施する。
- (2)開設支援事業
新たにチャイルドラインを始めたい団体には支援を行う。
- (3)チャイルドラインガイドラインの作成を行なう。
- (4)子どもの声を聞かせてキャラバン事業を全国 10 箇所で開催する。(申請中 / 独立行政法人福祉医療機構「社会福祉振興助成事業」)
- 4、[研修事業] 「チャイルドライン」に関わる組織及び人材のスキルアップを図る
- (1)研修担当者会議、エリア研修の実施(財団法人 JKA 補助事業)
チャイルドラインの質を維持し、さらに高めるために、チャイルドラインの研修に関わる担当者による会議を実施する。
より身近な地域でチャイルドラインの継続性と質を確保するためのエリア研修を 1 回実施する。
- (2)テキストの作成
チャイルドラインの質の向上を図るためや、運営基盤を整えるためのテキストを作成する。(財団法人 JKA 補助事業)
- 5、[ネットワーク事業] 全国及び近隣チャイルドライン同士の交流を図るとともに、行政、企業、他団体との連携、協働を推進し、「チャイルドライン全国フォーラム 2011 in みえ」につなげる。また、世界のチャイルド・ヘルプラインネットワークに参画することによって、世界とつながる。
- (1)エリア会議の開催
全国統一番号・フリーダイヤル実施のブラッシュアップのため、より身近な問題を交流・研鑽するために、エリア会議を年 1 回実施する。(財団法人 JKA 補助事業)
- (2)子どもの育つコミュニティ構築事業の実施
地域で子どもの活動に取り組む人々とともにシンポジウムなどを開催し、引き続き地域での子どものためのネットワークを構築することを目的に全国 4 箇所で開催する。(申請中 / 独立行政法人福祉医療機構「社会福祉振興助成事業」)
- (3)チャイルドライン全国フォーラム 2011 in みえの開催
11 月 26 日(土)、27 日(日)の 2 日間に渡って、三重県津市にて、第 7 回目となるチャイルドライン全国フォーラムを開催する。(申請中 / 年賀寄付金)
- (4) CHI アジア・パシフィック大会参加
隔年で開催される「CHI アジア・パシフィック大会」(開催地および開催日は未定)に参加し、アジア太平洋地域のチャイルドヘルプラインと交流を深める。CHI ニュースなどにより、世界のチャイルドラインの実施状況、子どもの状況等を把握する。
- 6、[調査研究事業] 日本のチャイルドラインのこれからのあり方について、調査研究をすすめる
- (1)調査研究の実施
「ヘルプライン」「ウェブ相談」「シェルター」などの可能性について、調査研究を行う。また、今後のチャイルドラインの在り方について 365 日・24 時間開設の可能性や、外国籍、障がいやマイノリティーなど対象拡大について調査研究を行う。

各地のチャイルドライン実施団体の多様性、独自性、地域ニーズについての調査研究を行う

7、[提言事業] チャイルドラインが受けとめた子どもの声を社会発信し、国や自治体などの子ども政策に反映させ、子どもの権利条約に保障された子どもの育ちを支える社会環境をつくる

(1)子ども政策プロジェクトの実施

チャイルドラインで受けとめる子どもの声を基にして、有効な社会発信をするためのあり方を検討する。

(2)「2011チャイルドライン年次報告」の作成、配布

2010年度の全国チャイルドラインの活動をまとめ、電話から見える子どもの声、電話のデータ等とあわせて社会に発信するための報告書を4000部作成、行政、各団体、企業などに配布する。(財団法人JKA補助事業)

8、[社会基盤事業] 他機関や企業との連携・協働をこれまで以上に推進し、社会の中での「チャイルドライン」の定着を目指す

(1)ファンドレイジング

継続的に支援を得られる企業との関係強化および新規企業の開拓を行うとともに、新しいファンドレイジングのあり方(サポーターズクラブ等)についても具体的にすすめていく。

(2)企業との協働、協賛事業の推進

協働事業による企業との連携の機会を広げて、財政基盤の強化につなげる。

(3)助成、補助、委託

事業計画に即して、財団等からの助成、補助、委託事業などの獲得につとめる。

(4)議連、省庁、国会、各種関係団体との協働

チャイルドライン支援議員連盟の学習会開催などに積極的に参加する。議連からの働きかけによってチャイルドラインへの支援や理解が拡大する方法を探る。また子ども政策を担う厚生労働省、文部科学省への働きかけを積極的に行い、チャイルドラインの活動への理解を深めるとともに、子ども政策に反映されるよう働きかける。

また、NPO活動が社会においてより発展し活動していけるようにするために、NPO関係の分野を超えたネットワークを形成するとともに、関係機関と協働する

9、[基盤整備事業] チャイルドライン支援センターのあり方も含め、組織運営の整備に引き続き取り組む

(1)組織運営の整備

事業の精査、事業に見合う組織づくり、諸規定の整備など。

理事、スタッフの研修を行なう。

10、[震災関連] 東日本大震災を受け、チャイルドラインとしての子ども支援を行なう [震災関連]

(1)チャイルドラインとして何ができるかニーズ調査を行い、子ども支援の形を研究する。

(2)社会資源とニーズをつなげる働きかけを行なう。

(3)震災に関わる子ども支援を考え、東日本大震災子ども支援ネットワークを通じて、政策提言を行う。